

I 実践

1 研究主題

一人ひとりが人権尊重の自覚をもち、互いに認め合い助け合う児童の育成
——「校内人権週間」の活動を通して——

(1) 主題設定の理由

本校の児童は明るく素直な反面、相手を思いやる配慮に欠けたり、やや自己中心的な言動によるトラブルが目立つという実態がある。そこで、人権教育においては「自分を大切に、他人も大切に」をテーマに、上記の主題を設定した。一人一人が大切な存在であることを自覚するとともに、他者への思いやりのある言動のとれる児童の育成をねらいとして研究を進めたい。

(2) 研究の内容

「校内人権週間」を設け、以下の内容について実施した。

ア 人権に関する映画を活用した学習を行う。

イ 「なかよし週間」(児童向けの名称) チェックカードを配付し、毎日の生活について交友関係を中心に振り返らせる。

2 実践内容と成果

(1) 人権に関する映画を活用した学習 (校内人権週間の期間中に実施)

第1～3学年は「5等になりたい」、第4～6学年は「クイール」をそれぞれ鑑賞した。

「5等になりたい」では、いじめについて考えるよい機会となり、主人公が足に障害をもちながらも自立していく様子に涙を流しながら感動し、思いやりの心を育てることができた。

「クイール」では、盲導犬のクイールがパピーウォーカーに預けられて、一人前の盲導犬になってその一生を終えるまでを描いたもので、目の不自由な人を助ける姿に感動し、人間を信頼しきった、素直な盲導犬に育ったクイールのすばらしさを学習することができた。

《ワークシート例》



わたしの「5等になりたい」を見て思ふことは、一人一人、ちがう力をもつことがわかった。走りがおもしろい人、いろいろなちからの人、いろいろな力ありました。足がある人たってみんな力も合わせたが、一等になれるところがありました。一人一人力も合わせて一つの力ができるのです。これが力あります。一人でも力も合わせながら、一つの力にちがいといいました。運動会とか、みちるはんとか、ちがいだ人と混ざり、みんなで力を合わせたから、一等になれたと思います。

3年 4組



クイールを見て一番強く印象に残ったのは命の大切さです。人間にモ動物にも命があり生きているだけではなく、命にしなければならないという事を映画を通して改めて分かりました。他にも盲導犬のすごさや盲導犬になるための厳しさなどがよく分かりました。そして盲導犬の大切さや重要な点が分かりました。この映画を見ておどろいたのは盲導犬というのには、いろいろな人の手によって成り立っていくということです。私は、いままで盲導犬は、かっこいいのと同時に訓練所にいるけれど、まだ訓練され初めて盲導犬になれるところへいました。この映画を見て初めて盲導犬は人間の力によって盲導犬になれることをわかりました。このように、この映画から盲導犬の命の大切さと盲導犬の大切さでこの映画を見て本当に良かったと思いました。

6年 1組

(2) 校内人権週間「なかよし週間」の活動

【平成22年11月15日（月）～19日（金）実施】

「なかよし週間」は、本校で5年間継続実施している。その期間、身近にいる友だちの存在を意識し、仲よく楽しく生活するためのポイントをチェックカードに提示して振り返らせ、互いに認め合い助け合うことの大切さや友だちのすばらしさについて考えながら生活するよい機会になっている。

また、この期間に(1)で述べた人権に関する映画鑑賞の学習を併せて実施している。

《チェックカード例》

なかよし週間

11月15日(月) ~ 11月19日(金)

① 「ともだちっていいなあ。」「元がおいで、すてきだね。」みんななかよく、
えがおですございましょう。

② 友だちのいいところがんばっているところを見つけてましょう。

③ こまっているともだちがいたら、声をかけてみげましょう。

④ こまつたことやしんどいことがあいたら、そらだんしましょう。

4年	4組	登録			
[]	[]	[]			
〔 チェック よくできた○ まあまあできた○ もうすこし○ 〕					
ふりかえってみよう	15日 (月)	16日 (火)	17日 (水)	18日 (木)	19日 (金)
①元気に明るく生活できました。	○	○	○	○	○
②友だちとなかよくできました。	○	○	○	○	○
③友だちのいいところを見つけられました。	○	○	○	○	○
④人にしんせつにできました。	○	○	○	○	○
⑤今日、がんばったことがあります。	○	○	○	○	○

▼1週間をふりかえって、心のこったことを書きましょう。
今月は元気で明るく生活できるようになりました。
みんなは人にしんせつにしたり友だち作りました。
見つけたいです。

II 今後の課題

- 1 本校人権教育の目標や計画について職員の共通理解を図り、具体的な活動や指導について各学年の計画を立案することによって、より実践的な活動を展開する。
 - 2 本校児童の実態を常に把握し、課題意識を持って指導に当たるとともに、職員の研修の機会をできるだけもてるよう努める。
 - 3 「なかよし週間」については活動内容を検討し、今後も継続して実施する。
 - 4 人権教育に関する指導資料や視聴覚教材などについての情報を収集し、より有効な活用を図る。
 - 5 「人権コーナー」を設置し、児童が日常的に人権学習に親しむ機会を提供できるようにし、人権感覚を育てる。
 - 6 授業参観や懇談会などの機会に人権に関する学習や話題を提供し、家庭への理解を深める。